

第9回「観光戦略実行推進タスクフォース」テーマ

「観光資源の保存と活用」

2017年 4月 6日

株式会社小西美術工藝社
代表取締役社長

デービッド・アトキンソン

公的施設

- 両迎賓館は一般公開が順調
- 解説の整備も充実している
- 拝観料が浸透

課題

- 発信の連携
- 国内需要が一巡した後の対策
- MICEのための営業体制を構築

観光資源としての文化財の開花

- 少しずつ形が出来つつある
 - ✓ 面的な修理
 - ✓ 修理の周期も改善している
 - ✓ 美装化の貢献度が大きい
 - ✓ 修理の公開も始まっている
 - ✓ 多言語化は未だ
 - ✓ ポータルサイトは未だ

文化財の課題

1. 日本遺産の軌道修正
2. 美装化予算（平成29年度3億円）を段階的に増やす必要性
3. 多言語対応は観光庁が主導して、文化庁がチェックする仕組み
4. 文化庁の建造物担当の人材増強が急務
5. 文化財修理工事を公共工事と同等にして、国交省から都道府県に通達
6. 産業化のために、文化財行政を教育委員会から切り離して、文化・スポーツ・観光を統合させる

今の仕組みは発展性に欠ける

国立公園の課題

1. 稼ぐ国立公園の意識改革
2. 交通とホテル等のミスマッチ
3. ビジターセンターの多言語化
4. 体験の充実

国立公園は日本の観光の中核

情報発信の課題

1. 4000万人を実現するには国別目標
2. 全国のHP等の調査
3. 役割分担の明確化
4. 情報発信の多様化
5. JNTOにネット専門部隊を設置
6. データ分析の充実